

意見書

再意見提出者	中京テレビ放送株式会社
--------	-------------

意見項目	意見内容
(4) その他	放送事業者は、災害、事件事故報道で、住民の安全確保のため状況や危険回避の周知を目的として、現場の様子を取材し本社まで伝送して放送することを使命としている。ビル等の遮蔽物が多い都市部での災害、事件事故報道において、反射や回折により遮蔽物を通り越して伝送できる800MHz帯のFPUの「見通し外伝送」は必要不可欠なものである。

意見内容	寄せられた意見に対する意見内容
800MHz帯FPUの地デジ放送周波数帯のホワイトスペースへ移行すべきとの意見	800MHz帯FPUの受信基地局は高所に設置される場合が多いため、遠方からのテレビ電波が多数到来し運用に支障を与え、受信側の空きチャンネルがの選定が厳しくなり、運用が困難となる事が想定される。又、ラジオマイクに関しても、テレビ波からの妨害を受ける可能性があり、運用が困難となる事が想定される。
地デジ帯域はさらにリパックを進め、帯域を空けるべきとの意見	地上デジタル放送で52ch以下のチャンネルを更にリパックすることは、新たなデジタル混信問題を拡大させ、非常災害時等の放送による情報伝達に影響を与えることになり、国民の安全な生活を低下させてしまうことになり、行うべきではないと考えます。 当初、地上デジタル放送技術が発表された時点では、ガードインターバルの条件を満たせば、アナログ放送では考えられなかった隣接する異なる送信所から、同じチャンネルを使用でき周波数を有効利用できるものとして期待されていました。しかし2003年以降、実際に電波を発射して放送サービスを開始したところ、その伝搬状態はコンピュータでのシミュレーション通りにはならず、自然現象の中で減衰することあれば増幅することもあるフェーディング現象が確認されております。このフェーディングによって、計算上は問題無いとされた異なる放送サービスにおいてデジタル混信が発生しております。例えば、D/U比が取れるということで、他県の放送局と同じチャンネルを使用したため、妨害波の上昇フェーディングが発生した時に自局の放送が全く見られなくなる現象が各地で確認されております。これに対する根本的な解決策は、どちらかの放送局がチャンネルを変更することになるため、現状でもチャンネルが足りない状況です。帯域を空けるためにリパックを再度行えば更なるデジタル混信が発生することになります。